

人と海との共生を考える シンポジウム

～漁業者による環境・生態系保全活動～



平成20年11月21日(金) 13:00～17:00(開場 12:30)

九段会館 真珠

東京都千代田区九段南1-6-5 TEL03-3261-5521

＝プログラム＝

13:00～ 挨拶

13:10～ 基調講演

「農業の経験から交付金制度のあり方を考える」

小田切 徳美氏(明治大学農学部 教授)

14:00～ 地域で取り組む保全活動の事例報告

金萬 智男氏(千葉県 NPO法人盤州里海の会)

萩原 徳治氏(静岡県 榛南地域磯焼け対策推進協議会)

足利 由紀子氏(大分県 NPO法人水辺に遊ぶ会)

15:00～ 国が進める環境・生態系保全活動
支援制度について

水産庁

15:20～ 休憩

15:30～ パネルディスカッション

「里海の保全と地域協働」

パネリスト

小田切 徳美氏(明治大学農学部 教授)

金萬 智男氏(千葉県 NPO法人盤州里海の会)

萩原 徳治氏(静岡県 榛南地域磯焼け対策推進協議会)

足利 由紀子氏(大分県 NPO法人水辺に遊ぶ会)

合瀬 宏毅氏(NHK 解説委員)

水産庁 ほか

コーディネーター

乾 政秀氏(株式会社水土舎)

16:40～ 意見交換

17:00～ 閉会

趣旨

漁業は自然の生態系の恵みを楽しむ産業です。このため、漁業者は、漁業の源泉である自然環境や生態系の保全、とりわけ、水産資源を育む藻場や干潟等を大切に保全してきました。

藻場や干潟等は水質浄化や生物多様性の維持などの公益的機能を有しており、こうした漁業者の保全活動は同時に公益的機能の保全にも大きな役割を果たしてきたのです。

しかし、近年、漁業就業者の減少と高齢化の進展、漁村における混住化の進行など、沿岸域の環境・生態系保全活動を支えてきた担い手に大きな危機が訪れています。加えて、磯焼けの進行など地球環境の変化により、これまで以上に保全活動の負荷が増大しています。

漁業者だけの努力には限界があり、環境・生態系の保全活動には流域や地域の多くの市民の協力と連携が不可欠です。

このシンポジウムは、漁業関係者と一般市民や行政関係者等が集い、全国5つのブロックにおいて実施するものです。

地域の特色ある活動事例の発表や国・地方公共団体の施策の方向、関係者の今後の取組みについてパネルディスカッションを行い、漁業関係者の活動への認識を深めると共に、市民と漁業関係者が手を携え、沿岸域の環境・生態系保全活動の輪が大きく広がることを目的に開催するものです。

基調講演

「農業の経験から交付金制度のあり方」

小田切 徳美氏プロフィール



明治大学農学部食料環境政策学科 教授

略歴

1983年 東京大学農学部農業経済学科卒	1995年 高崎大学経済学部助教授
1988年 東京大学大学院博士課程修了	1995年 東京大学農学部助教授
1988年 (財)農政調査委員会専門調査員	1996年 東京大学大学院助教授
1988年 東京大学農学部助手	2006年 明治大学農学部教授
1992年 高崎大学経済学部専任講師	現在に至る

1959年神奈川県生まれ。専門は農政学・農村政策論。全国の農山村を歩き、農山村の再生を経済学・社会学・行政学等、いろいろな観点から模索している。

主な著書:『日本農業の中山間地帯問題』、『共生と協働によるまちづくり読本』(共著)、『地域農業マネジメントの革新と戦略手法』(共著)、『これからの農協』(共著)、『実践・まちづくり読本』(共著)、他

社会活動:地域活性化統合本部地域戦略チームメンバー(内閣官房)、第29次地方制度調査会委員(総務省)、新たな結研究会委員(国交省)、中山間地域等総合対策検討会委員(農林水産省)、政策評価委員会経営局部会長(農林水産省)、地域リーダー養成塾主任講師(地域活性化センター)、他